



No. 207
2018.October

ロボカップ世界大会
レスキュー実機リーグ3位入賞
(Page15.受賞報告)



Page 09	コラム
Page 10	Technology Pioneer
Page 12	イベント報告
Page 14	全国高専めぐり
Page 15	受賞報告 ギダイニュース
Page 16	行事報告 編集後記

Page02. 特集

高専連携

～高専で活躍する本学出身者～

高専連携

～高専で活躍する本学出身者～

今号では、「高専連携」をテーマに、本学の高専連携の取り組みや本学出身の高専で活躍する教員にフォーカスをあて、本学のことやご自身のことについてお話を伺いました。



高専連携室長／
機械創造工学専攻 教授

武田 雅敏

Masatoshi Takeda

長岡・豊橋両技術科学大学は、高等専門学校（高専）の卒業生を三年次に編入学で受け入れ、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を養成することを目的に、大学院修士課程までの一貫教育を前提として設立された大学です。現在では、高専本科からの三年次編入に加えて専攻科修士の大学院への入学もあわせると毎年300名以上の高専生が本学に進学しており、本学の学生の約8割が高専出身者です。

単に高専卒業生を受け入れている

だけでなく、高専在学中の学生、高専教員の皆さんと連携した教育・研究に力を入れているのも他大学とは異なる特徴だと思います。いくつか例をあげると、夏休み期間中のオープンハウスでは毎年100名程の高専生を受け入れて、1週間から2週間本学教員の指導のもとで研修を行ってもらっています。教員間では毎年70件ほどの共同研究が行われており、そこには高専、本学の学生もメンバーとして参加しております。また、長岡・豊橋両技術科学大学と国立高等専門学校機構の三

機関で申請した「三機関が連携・協働した教育改革」が文部科学省の国立大学改革強化推進事業に採択され、平成24年度から6年間、高専—技科大連携教育の更なる発展と充実に取り組みました。

このような連携教育のもとで学び、修了後に高専教員として活躍している方も少なくありません。そういった先生方とも協力して、高専との教育研究の連携をさらに強化・発展させてまいります。

01

本学、高専の学生・教職員でチームを組み参加した日本最大級のサイエンスコミュニケーションイベント「サイエンスアゴラ2017（科学技術振興機構主催）」



02

本学学生及び高専生合わせて参加者が300名を超える本学主催の国際会議STI-Gigaku



▲集合写真



▲学生ワークショップ



▲ポスター発表

03

全国の高専生を対象に夏休み期間中に本学教員のもとで研修を行ってもらおうオープンハウス

オープンハウス参加者の声

- 大学の施設および設備を利用できた今回の研修は、とても有意義でした。後輩にもすすめたいと思いました。
- 研究設備が多く、研究に対してあらゆる方向からアプローチをかけられる環境があることに大学の魅力を感じました。
- 先生にとっても丁寧に指導していただいて、長岡技科大への進学の思いが強くなりました。
- 本研修を通して研修内容はもちろん、様々なことを知ることができ、とても自分自身にプラスになった期間だと思います。指導教員を含め、全体的に雰囲気が良く、期間中楽しく過ごすことができました。
- 技科大への編入を考えていましたが、改めてこの学校に決めて勉強を頑張ろうと思いました。
- 進学を考える上での参考にもなりましたが、まだ触れたことのない機器や実験のやり方などを学ぶことができ、1週間という短い時間でも得られたことはたくさんありました。これからの学校生活で活かしていきたいです。

長岡技大時代、研究室のメンバーと寺泊の海水浴場へ（筆者：左から3人目）



北九州工業高等専門学校
生産デザイン工学科 教授

入江 司

Tsukasa Irie

1982年3月 修士課程
創造設計工学専攻修了

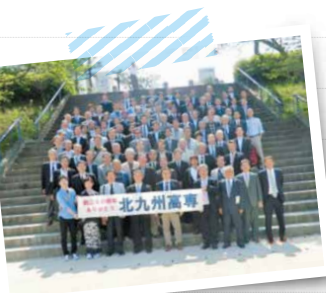


技大の良さ（技大だからこそ学べたこと）はなんですか。

私は、高専・技科大・民間企業・高専教員の経歴です。高専・技科大出身者は、同世代の0.05%のレアな人材、この特殊な教育を受けた技大生が、社会でエンジニアの中核として、評価を受けてきたことは、高専・技大の教職員と卒業生の信頼の証だと思います。技科大も半世紀を迎えようとしています。今こそ、高専、技科大が、益々連携して、レアな人材を輩出されるために、応援をしていきたいと思えます

高専の先生になるためにどのような就活をしましたか。

私は、高専卒業後地元企業に就職する予定でした。行き先もほぼ内定でした。ある日恩師から「入江君、来年、高専生卒業生を対象に技術科学大学ができるよ、受験してみないか、落ちたら就職は面倒見るから」、これが私の長岡技大と縁を持つきっかけでした。大学卒業後、民間で4年勤めていたら、恩師から「入江君、高専に戻って後輩の面倒を見ないか」、これが母校にお世話になる機会でした。恩師には感謝です。



北九州高専創立50周年記念同窓会
（筆者は同窓会事務局長として
同窓会活動に長く携わる）



北九州高専同期生、還暦同窓会
（機械・電気・化学の全学科で開催
筆者：中央後ろ、役員として法被を着用）

技大で培って現在も役立っていることはなんですか。

私は、技大時代、勉強をした思い出はあまりありません。設計製図でテーマを解決するために、過去の論文を調べ、メーカーに出向して企業の方に指導を受け、手書きで図面を描いたこと、実務訓練で、5ヶ月間お世話になり、毎晩、飲み連れて行っていたこと、六甲山縦走を経験し、次年度も六甲縦走に参加。企業人との交流をさせていただいたことが、今、学生の進路指導等で役立っています。

後輩へ向けたメッセージをお願いします。

私は、縁あって栄えある1期生として修了させていただきました。この歳になって、今まで、母校に対して何も恩返しができていることに改めて気づきました。技科大が、50周年、100周年と伝統ある大学になるためには、卒業生の活躍が第一です。それぞれの立場で技大OBとして、お互いに連携をしていきましょう。そして、さらに、母校との連携も深めて、応援をしていきましょう。

人生の再出発点となった喫茶店「πの池」
（学生時代この池で大ケガをし、とても
思い出があります。（苦笑））



大阪府立大学工業高等専門学校
総合工学システム学科 教授/
地域連携テクノセンター長

土井 智晴

Tomoharu Doi

1993年3月 修士課程
機械システム工学専攻修了



技大を選んだ理由は何ですか。

スキーを満喫できる、日本酒が美味しい、女性が美しい、と長岡技術科学大学卒の先輩教員である高専生当時の卒研教員の里中直樹先生に薦められた、というのは「技大の志望動機」を聞かれたときのネタです。一番の動機は、里中先生が「長岡にはロボットの先生がいる」と言ったことでした。ここでいう、ロボットの先生は、原辰次先生のことですが、私が技大に編入学したときは、技大には居られませんでした。しかし、技大で制御を研究したことで、学会のセミナーで原先生には、制御理論をお教えいただきました。技大には、人と人を繋げる神秘的な力があると思います。

いつ研究者になろうと思いましたか。

大阪府立大学高専の教員として面接を受けるために、提出書類として必要であった推薦状を指導教員であった川谷亮治先生に作成を依頼したところ「研究者を志すなら書いてあげてもいいので、一晩、考えて出直さない」といわれました。私自身は、研究者というより高専の先生として働くイメージだったので、一人ぼんやりと「研究者にな

ろう」と下宿の部屋で考えたことを覚えています。そのときはただ単にぼんやりと考えましたが、今でも、研究活動等に悩んだときは、川谷先生の言葉を思い出し、初心にもどることが、よくあります。

研究分野をどのように選んでましたか。

マジンガーZを作りたいくて、長岡技大に編入学しましたが、ロボットの先生は当時居られず、制御工学を研究分野としました。その後、大阪府立高専に着任し、1999年に大阪府立大学で博士号を取得したことで阪神淡路大震災が契機となり、レスキューロボットの研究を始めました。この研究テーマがご縁で技大の木村哲也先生とも知り合いになりました。いま、考えると幼稚園の頃に「マジンガーZを作りたい」と思ったことが、レスキューロボットを作る、ということにつながっているのかもしれません。

高専の先生になるためにどのような就活をしましたか。

大阪に帰省するたびに高専に顔を出していました。技大に編入学を決めたときから、教員という選択肢はありました。それもあり、教員免許に関する単位は、教員実習

を含めてすべて取得しました。大学院修了と同時に母校にて教員公募があり応募しました。面接当日、高専同期の学年トップの友人が面接者控室に居たのです。これは、だめだと思い、実務訓練の受け入れていただいた企業のロボット部署に工場見学に行きました。結果的には教員免許が効力を発揮して、高専教員になりました。就活といていのか、わかりませんが、私の場合教職課程の単位が教員になることの助けになったことは間違いなさそうです。

後輩へ向けたメッセージをお願いします。

いま、このときを楽しむ心と生涯学び続ける身体的・精神的基盤を培ってほしい。



第1回廃炉創造ロボコンで優勝し、
文部科学大臣賞を受賞した
レスキューロボット

2016世界展開力・
Guanajuato引率



長岡工業高等専門学校
物質工学科 教授

鈴木 秋弘

Akihiro Suzuki

1985年3月 修士課程
材料開発工学専攻修了



技大を選んだ理由はなんですか。

長岡高専・工業化学科(現物質工学科)15回卒(1981年)、その当時の高専は発足から15年、就職で困ることなど全く無く、進学は珍しい状況でした。ただ、自分の進路(高専の進路)について、ある種の閉塞感があったのは事実です。そんな時、卒研担当の粟野一志先生から、化学の雑誌を手渡されました。そこには、その後恩師となる生越久靖先生が京都大学から長岡技科大に移ること、今後の抱負等が書かれていました。今思えば、その記事が技大を選んだ、いや、生越研究室を選んだきっかけだったと思います。そして、生越先生の言葉「僕は、俗にいう一流校を叩き潰すために、本学に来了。そのつもりで付き合ってください」今でも忘れません。出会いに感謝!

高専の先生になるためにどのような就活をしましたか。

その当時、技大は修士課程までしかありませんでした。研究生活は結構充実しており、当たり前のように化学系企業への就職を決めました。時代は、バブルの始まりで、面接に行き帰ってくる頃には内定が出ているような状況でした。それなのに、何故、高専教員へ?現在の教員採用は公募が当たり前ですが、その年は、高専教員の定年削減と絡み、自分の知らない間に、高専教員に決まっていたというのがウソのような本

当の話です。チャンスは突然に!案外見られています!

高専教員:教育>研究、教育<研究、いやいや、教育⇄研究です。今頃気付きました!海外研修・クラブ引率・楽しんでます!

研究分野をどのように選んでましたか。

学生の頃からはじめた「ポルフィリンの化学」に今も魅せられています!もちろん、研究の目的・テーマは変われど、その中心にいるのは、いつもポルフィリンです。勉強と同じで、研究(実験)すればするほど、わからないところが見えてくる・ハッキリするといった感じで、終わりがありません。合成化学者なら何回か経験する、世界初、世界で誰も作ったことがないターゲットがフラスコの底にキラッと輝ったときの感激は忘れることができません。興味が一番!感動が原動力!

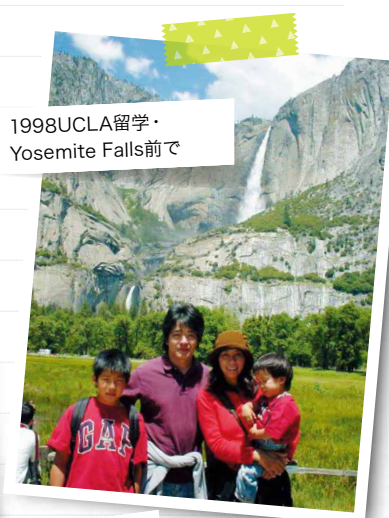
ただ、研究テーマは内地留学(京大)、在外(UCLA)で散々もがいたにも関わらず、“釈迦の手のひらの上”同様、“恩師の手のひらの上”から飛び立っていないようです。残り時間ごく僅か!



2018バスケットボール
高専全国大会in熊本引率

後輩へ向けたメッセージをお願いします。

「最近の若者はハングリー精神が無い」、「草食化・無欲」や「海外志向の減退」などの「若者論」を耳にすることも多いと思います。置き換えて、「最近の学生は・・・」です。それは、世の常・人の常で、年上世代の人々も現在の社会に対して、モノには満ちているが、ある種の閉塞感を感じており、「スーパーマンのような若者」に早くこの世界を変えてほしいと期待しているからだと思います。その閉塞感の原因が、「産・官・学・労の高齢化」にあるにも関わらずです。人は歳を取るほど保守的になり、革新性を失っていくものです。若者たちに必要なのは、感性(直観力)を磨き、“鈍感力”を持って、我が道を進むことだと思います。期待しています!!



1998UCLA留学・
Yosemite Falls前

夏休みの工作教室の講師をしている様子



技大を選んだ理由はなんですか。

私は、工業高校生であった当時、4年制の国立大へ進学を希望していました。音響工学に興味があり、将来は電気的な音響機器を設計・開発したいと思っていたからです。担任の先生から、技大でヘッドホンを使ったバーチャルサウンドの研究を行っている研究室があり、オープンキャンパスへ行ってみないかと助言を頂きました。実際にオープンキャンパスへ参加して、研究内容に非常に興味を持ち、技大への進学希望と同時に、その研究室で研究すると心に決めていました。

高専の先生になるためにどのような就活をしましたか。

修士課程を修了した後に実家のある北海道にて働きたいと考え、指導教員に進路について相談したところ、博士課程へ進んで博士号を取得し、北海道の高等教育機関へ就職してはどうかと助言を頂きました。博士課程へ進学してからは、その指導教員のはからいで、北海道の高専へ技大の宣伝を兼ねた出前授業を実施する際に、同行させて頂きました。そこで、高専の学生や先生方を相手に研究の

2007年3月 博士後期課程
情報・制御工学専攻修了

苫小牧工業高等専門学校
創造工学科 電気電子系 准教授

工藤 彰洋

Akihiro Kudo



成果のデモ体験を実施して、自身をアピールしたことがありました。高専の先生方に私の顔を覚えてもらうには、非常に良い機会だったと思います。

技大の良さ(技大だからこそ学べたこと)はなんですか。

私はいわゆる旧カリ組(学部1年からの入学者)で、学部3年生の時に全国の高専から編入してきた学生達に出会いました。彼らは一芸に秀でた学生が多く、学生実験では実験を進める段取りの良さに驚いたこと、また、研究室へ配属された同期のメンバーがプログラミングに長けており、プログラミングのテクニックに関する自主ゼミを実施したことなど、自分のスキルを高めるうえで非常に良い経験だったと思います。このような素晴らしい経験ができたことは、技大ならではのことでないかと感じております。

後輩へ向けたメッセージをお願いします。

技科大での9年間は、いまの私の設計図そのものと言っても言い過ぎではないくらい、多くの経験をすることができました。全国から集まった高校や高専生達との交流、学生実験とレポート作成、没頭した研究生活、海外での研究発表など、いま思い出しても素晴らしい出来事だったと感じます。ぜひ、大きな目標を持って技科大での学生生活、研究生活を充実したものにしたいと思っています。



高専の回路製作実習で作製した回路を説明している様子



バーチャルサウンドのデモを実施している様子

実務訓練で
お世話になった方たち



博士後期課程
材料工学専攻 1年

福井工業高等専門学校出身

蓼輪 圭祐

Keisuke Minowa



高専教員を目指す本学学生

技大を選んだ理由はなんですか。

高専3年次に大学へ進学することは決めていましたが、イマイチどの大学が自分にとっていいのかわからず、悩んでいました。そのときに当時の担任の先生から技大を勧められたのがきっかけです。特待生になれば金銭的負担が減ること、高専と技大が協働してエンジニアを育成するプログラム（アドバンストコース）があること、長期間の実務訓練があり現場での実務を体験できることなど、様々なことに魅力を感じ技大への進学を決めました。

研究分野をどのように選んできましたか。

私は土木工学、とくにコンクリート材料を専門として研究しています。高専・技大で土木に関するたくさんの勉強をしてきましたが、どちらかといえば、コンクリートは理解できないことが多く苦手な科目でした。しかし、一番興味を持ったのもコンクリートでした。社会基盤をつくりあげていくなかで必要不可欠なものであるコンクリートについてもっと知りたいと思い、コンクリート研究室を選びました。

技大の良さ（技大だからこそ学べたこと）はなんですか。

技大にきたからこそ体験できたことといえば、やはり海外での実務訓練が最初に思い浮かびます。私はスペインのバルセロナに行かせていただきましたが、約半年という長期間の海外生活を学生のときに経験できたのは非常に有意義でした。学生のときに海外に行くとなると、大学を一旦休学するのが一般的なものでそこで踏みとどまってしまう人も多いと思います。技大ではそれを気にする必要がないので、思いっきり海外生活を満喫できました。

技大を目指す学生へ向けたメッセージをお願いします。

高校生・高専生の皆さんは、大学生活という体験したことのないものに期待と不安が入り混じった心境だと思います。しかし、私がそうだったように、その不安の大半は杞憂に終わり、充実した学生生活を送ることができると思います。技大で皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。

ライトアップされた
サグラダファミリアは
本当に綺麗でした



実務訓練先の
カタリニア工科大学 (UPS)
キャンパス

Part 6

留学生コラム



文 Nur Adlin Binti Abu Bakar

ヌル アデリンビンディ アブバカル

5年一貫制博士課程

技術科学イノベーション専攻 4年

出身：マレーシア

きんつ
「金継ぎ」



留学生から自分の好きな言葉や思い入れがある「ことば」の一つ挙げてもらい、その言葉に関するエピソードなどを紹介します。

私は一番好きな日本の言葉は「金継ぎ」です。割れたり欠けたりした陶器を漆で接着し、接着部分を金粉や銀粉で装飾する作業を表します。

私は大学を受験した時、第一希望の課程に受かりませんでした。なので、大学に進学するかどうかを迷いました。大学を諦めて就職することも考えました。しかし、金沢に旅行に行った時、金継ぎを体験して金継ぎの重要で美しいメッセージを気付きました。それは壊れてしまったものにそれ以上の価値を吹き込んで、新たな風情や味わいのあるものを生み出すこともできるということです。なので、私は大学に進学することを決めました。大学に進学後、最先端

技術に触れることができるだけではなく自分の成長も感じ始めました。我々は人間だからこそ失敗から逃げられません。しかし、積極的に方法を模索し、失敗の経験から学ぶことで新たな価値を持つユニークなものになれると思います。



Part 6

コラム 執行部 だより

価値観

私たちが日常手にしている文具には、多機能なボールペンや両開き可能なパイプ式バインダーなど、日本の「ものづくり」の精巧さと創意工夫に満ちています。こうした文具は、海外で働く日本人の知人からお土産に所望されることもあり、現地で手に入るものに比べて、便利さは格段に優れているようです。私も、海外で提供された会議資料バインダーの使いにくさ(大きさや噛み合わせの悪さなど)に閉口した経験があります。他方、海外の人たちからは、精巧な日本の文具に関心はあっても、日常的に使うとなると意見は分かれるようです。扱いが難しそう、壊れそうという他に、そこまでの便利さや機能を求めない人も少なくないようです。機能や構造は簡単な方が良く、バインダーなら書類を綴じることができれば十分、と考える人が多いように思います。海外の多様な価値観に触れてみると、日本での何気ない日常にいろいろな気付きを与えてくれます。



理事・事務局長
(総務、財務、経営担当)
[文] 秋山和男
Kazuo Akiyama

Part 6

コラム 事務局 だより

居場所

もう長年図書館で働いていますが、毎年秋から冬にかけてちょっぴりさみしくなることがあります。それは、常連だった学生さんがあまり図書館にこなくなってしまうこと。きっと研究室に配属されて、居場所ができて、図書館に来る回数が減るんでしょうね。

でも、学年が上がっても変わらず図書館に来てくれる学生さんもちろんいます。毎朝新聞を読みに来たり、新着の図書をチェックしてくれたり、中には物陰にある椅子で居眠りしたりする人も…。でも、それでいいと思うんです。勉強や研究のためだけでなく、息抜きしたいときやちょっと時間があいたときの居場所に図書館がなれたらうれしいと個人的には思っています。

ただし、寝袋持参や床での本気寝はご遠慮ください。夜は自宅でゆっくり寝てください。



総合情報課／図書情報係
[文] 深澤百合子
Yuriko Fukasawa

テクノロジー・パイオニア Technology Pioneer

シリーズ「Technology Pioneer (テクノロジー・パイオニア)」では、本学の最先端研究を幅広く紹介します。

No.
18

電気電子情報工学専攻
助教

渡部 康平

当たり前につながる ネットワークのために

Q 研究の内容を教えてください。

インターネットを始めとするネットワークの品質を調べたり、改善したりする研究を手掛けています。ネットワークでは、あちこちが故障したり渋滞が起ること、情報の伝達が遅れたり途中で情報が失われてしまうことがよくあります。この情報の遅れや消失を極力なくし、安定した品質の通信インフラを作ることが目的です。

Q 品質が良くなるとどのような良いことがありますか？

安定した通信品質が実現できれば、ネットワークを様々な用途に使えるようになります。例えば、ロボットアームを使った遠隔手術を実現する場合、情報伝達の遅れは患者の死に直結します。品質が不安定なネットワークでは、このような用途には利用できません。

Q これからのインターネットはどうなりますか？

IoT (Internet of Things)という言葉聞いたことがあるかもしれません。家電、衣服など日常のあらゆるものがインターネットに接続され、膨大な数の端末が通信するようになります。しかし、実は現在のインターネットの仕組みでは、膨大な数のIoT端末による通信をさばくことは難しいのです。端末増加に対していかに通信品質を維持するか、我々研究者が今まさに取り組んでいる課題です。

【関連するHP】

<https://kaede.nagaokaut.ac.jp/indexjp.html>

No.
19

物質材料工学専攻
教授

石橋 隆幸

磁場を可視化する

Q 研究内容を教えてください。

本研究室では、磁場を可視化する材料の開発とそれを用いた磁気イメージング技術の開発を行っています。また、次世代の立体映像技術を実現するための磁性体を使った超高精細ディスプレイや、光を使った磁性材料の特性評価など、光と磁性に関する研究を行っています。

Q 磁場をどうやって可視化するのですか？

本研究室では、磁場を可視化する磁性ガーネット膜を開発することに成功しました。このガーネット膜は、磁場が印加されると、偏光板を通して照射した光の偏光面を、その磁場の強さや方向に応じて回転させます。そのとき、もう一つの偏光板を通して見ると、光の明るさや色の変化します。例えば、永久磁石の上に磁性ガーネット膜を置くと、磁石によって生じた磁場の分布が光の強さの分布となって目に見えるのです。

Q なぜ磁場を可視化する技術が必要なのですか？

磁場を可視化できると、電流も可視化することもできます。磁場や電流を可視化することができるようになると、例えば、電気自動車の電気モーターに用いられている磁石や電気回路の非破壊検査が可能になります。その他にも、金属部品の探傷検査や金属異物の検出など、様々な検査技術として期待されています。

【関連するHP】

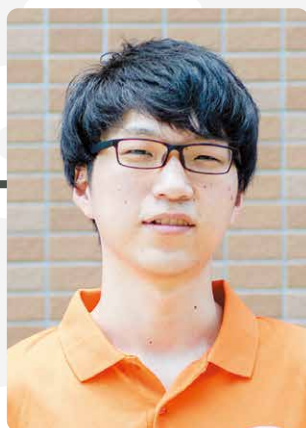
http://mst.nagaokaut.ac.jp/~t_bashi/

技大祭

第38回技大祭を終えて

電気電子情報工学課程4年
宇部工業高等専門学校出身

金子 裕亮
Yusuke Kaneko



こんにちは。第38回技大祭実行委員長の金子です。先日の技大祭はお楽しみいただけたでしょうか。今年は天候にも恵まれ、ほとんどの企画を晴天の下運営することができました。不安も大きかったのですが、無事に技大祭を終えることができて安心しています。これも学生、地域の方々、その他技大祭に関わっていただいたすべての方々にご協力いただいたからです。第38回技大祭のテーマであった「Puzzle」を体現できたのではないかと思います。皆様の力をお借りして、活気あふれる技大祭にできました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

個人的には、委員長という立場を経験できたことを嬉しく思います。私は、元々人の上に立ってみんなを引っ張るような性格ではありませんでした。技大祭が終わった今でも自分の役割を全うできたか分かりませんが、1年

間中心となって活動したことで多くのことを学ぶことができました。苦労し悩むこともありましたが、その度に皆に助けをもらい、乗り越えることができました。後から考えると、不安でもなんでもやってみれば何とかなるものだな、と感じます。技大祭実行委員長として活動してきた中で得た経験は本当に貴重で充実したものでした。第39回技大祭では、中心となるメンバーが変わります。先輩方から受け継いだ思いをしっかりと後輩たちに引き継ぎ、皆様に愛される技大祭を目指し尽力いたします。今後とも技大祭実行委員会をよろしく願いいたします。



国際祭り

第20回の長岡技大国際祭り-Puzzle

修士課程 環境社会基盤工学専攻2年
(メキシコ出身)

バルバ カルロス
Barba Carlos



こんにちは。今年度の留学生会長 Barba Carlosです。

20年前、技大の留学生が母国の文化を紹介できるイベントおよび長岡市民が地元で異文化を体験できることを目的として、長岡技大国際祭りが生まれました。本年度、技大祭の30の模擬店に加えて、ベトナムや、モンゴルなどの9カ国の国際模擬店を出店し、バングラデシュのカレーやメキシコのテキーラなどのような伝統的な料理と飲み物を販売しました。各国の留学生は心を込めて、ユニークな料理を作り、来場者から良い評判を頂きました。また、各国の民族衣装のファッションショーや民族舞踊のパフォーマンスを行いました。パフォーマンスでは観覧者の方々はとても盛り上がり、踊りにも参加していただきました。非常に楽しかったです。

今年の技大祭テーマ「Puzzle」と相まって、世界のPuzzleのようにいろんな国の留学生と長岡市民が集まって、国際的な環境で異文化に自分の手で触れることができました。技大祭まで、様々な企画があり、大変だったと思いますが、いつも留学生を支援して頂いているむつみ会、国際課、技大祭実行委員会のお陰で今年も無事に技大国際祭りを終えることができました。また、長岡市民の方々にはご来場

頂き、お礼申し上げます。

本年度は技大国際祭り20周年ということで、その間に多くの留学生は長岡市民との交流を通じて異文化体験をして、有意義な経験だったと思います。今後もこの活動を継続し、30周年に繋いでいければ幸いです。



全国高専めぐり

第三十八回
長野工業
高等専門学校

ソーシャル・ドクターの 育成を目指して

独立行政法人 国立高等専門学校機構
長野工業高等専門学校 校長 石原 祐志
Yuji Ishihara



本校は県庁所在地にあるという全国でも珍しい高専です。その地の利を生かして、会員数300を超える長野高専技術振興会を組織し、企業技術者の育成や地域産業の振興を図るために、講演会、技術講座・セミナー、技術相談等を積極的に行っています。この他、キッズサイエンスの開催、長野灯明まつりのプロジェクションマッピング製作(学生)、U-15長野プログラミングコンテストの支援など社会貢献を行っています。

また、技術者教育の国際標準(JABEE認定)を維持するとともに、今年7月からCDIO Initiativeに加盟し、海外の先進的な大学との連携の深化を図るなど、グローバル化に努めています。学生も海外インターンシップ、海外提携校への技術指導、タイ日高校生科学フェアへの参加など積極的に海外で活躍をしています。さらに、本校タイ協働センターが中核となっ



企業向けサーバー犯罪対策の講演会



長野灯明まつりのプロジェクションマッピング

て他高専の協力を得ながら、今年5月にタイに開校した2つの高専コースへの支援等を行っています。

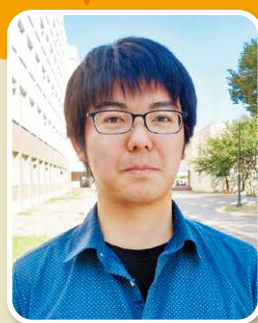
このように本校は、地域振興・国際化を柱に、「優れた技術者は、優れた人間でなければならない」という教育理念を掲げ、地球環境や様々な地域社会の課題を解決するとともに、豊かな生活や産業の進展を担うために不可欠なエンジニアいわゆるソーシャル・ドクターの育成を行っています。

長野工業高等専門学校URL:
<https://www.nagano-nct.ac.jp/>



電子工作ワークショップ@タイ(学生が製作補助)

長野工業高専 から 長岡技大へ



電気電子情報工学専攻 2年
柄澤 匠 Takumi Karasawa
長野工業高等専門学校電子情報工学科
平成27年3月卒業

将来のイメージを求めて

私は中学生の頃に見た、とあるテレビ番組をきっかけに、コンピュータに興味を持ち、長野高専に進学する事を決めました。高専では電子情報工学科に所属し、プログラミング等の様々な事を学びました。学んだ事を将来、どのように生かす事ができるのかを知りたいと考え、本学に進学する事を決めました。私は医療分野に興味を持ったため、現在は神経情報処理研究室に所属し、近赤外分光法という脳機能計測を用いて研究を行っています。研究室配属前には研究室見学の機会があり、研究内容や学生の雰囲気等を知ることができました。そのため、将来やりたい

ことが決まっている方もそうでない方も興味を持てる事を見つけたことができると思っていますので、ぜひ本学を考えてみて下さい。



実験風景

Report of the
receiving a prize

受賞報告



表彰の様子(左から小野、北村、塩谷)

修士課程 機械創造工学専攻 2年
塩谷 昌行 Masayuki Shiotani
(木更津工業高等専門学校出身)

修士課程 機械創造工学専攻 2年
北村 龍司 Ryuji Kitamura
(長岡工業高等専門学校出身)

修士課程 機械創造工学専攻 1年
小野 敬裕 Takahiro Ono
(福島工業高等専門学校出身)

ロボカップ2018世界大会 レスキュー実機リーグ3位

この度、カナダ・モントリオールで開催されたロボカップ2018世界大会のレスキュー実機リーグで「Nexis-R(ながおか次世代ロボット産業化機構)」が3位という成績を収めました。ロボカップレスキュー実機リーグとは、レスキューロボットを遠隔で操縦し、災害現場を模したフィールドで走行性能やセンサ機能、マッピング技術などを競う競技です。

私達「Nexis-R」はレスキューロボットの開発を通じ、あらゆる人間の活動を支援するサービスロボットの実用化を目指して活動している産学合同の団体です。学生のフットワークの軽さと、長岡の企業の堅実なものづくり技術を組み合わせた私たちのロボットは、過酷な環境の中でも作業が

継続できるタフさが持ち味です。

数度の国内大会優勝、国際大会入賞を経験し、その都度課題を解決しながら高めてきた結果、発足10年目にして初の国際大会3位入賞となりました。現在は、半浸水環境を想定した防水化と、近年需要が高まってきた画像処理、環境マッピング技術の搭載を進めています。将来的には得られた成果をオープンソース化し国内外の開発に貢献するとともに、長岡市にロボット産業を根付かせていきたいと考えております。

最後に、発足より学内外の皆様のご厚意により活動を続けてこられたことに深く感謝申し上げるとともに、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

ギダイニュース

TOPIC
01

ホームカミングディ2018を開催

9月16日(日)、本学2回目の開催となるホームカミングディ2018を開催しました。今年は約130名の参加があり、東学長、丸山名誉教授懇談会会長、磯部同窓会会長のあいさつの後、本学の歴史紹介ビデオ「NUTヘリテージ」が上映され、続いて、「グローバルに活躍されるOB」と題した特別講演会では、佐藤豊氏(建設工学専攻10期)、澤俊詩氏(電子機器工学専攻7期)から、ご自身の経験を講演いただきました。

続く在学生と卒業生との座談会では、海外実務訓練経験者の4名の在学生がそれぞれの経験を報告するとともに、講演会講師のお二人や参加者の方々からご意見をいただくなど、本学のさらなるグローバル化に向けたヒントを得ることができました。

その後開催された名誉教授懇談会では、「名誉教授と本学との関わり」をテーマに、名誉教授と本学が相互に協力できる事柄などについて、意見交換を行いました。

最後に行われた交流会では、懐かしい恩師や友人との再会で多に盛り上がり、終始和やかな雰囲気で開催されました。



澤氏の講演の様子



在学生と卒業生座談会



歓談する名誉教授、現役教授、卒業生

TOPIC
02

平成30年度父母等懇談会を開催

9月16日(日)に平成30年度父母等懇談会(第14回)を開催し、全国から200名を超えるご家族の皆様から御参加いただきました。

全体会では、東学長あいさつの後、本学の概要と修学状況、就職状況と支援体制、最近のトピックスについて、担当の副学長より説明を行いました。

その後、所属課程ごとに分かれ、各課程に特化した課程別全体会を実施いたしました。

午後からの個別面談では、各課程の会議室・教員室等で学生の修学状況や就職の動向等について、クラス担任や指導教員との率直な相談が行われました。



課程別全体会



個別面談 風景

8月5日(日)に開催したオープンキャンパスには、高校生、高専生を中心として、県内外から1,000名以上の皆様からご参加いただきました。

今年度は、70か所の研究室公開、OB/OGによる就活体験談、学生による各課程の紹介や相談・質問、入試・生活・授業などに関する個別相談、学生宿舎見学等を行いました。

公開研究室見学では各研究室が行っている最先端の研究を教員

や在学生がわかりやすく解説し、参加者は、それぞれ興味・関心のあ

る研究室を訪ね、熱心に説明を聞き、積極的に質問をしていました。

オープンキャンパス参加者を対象に行ったアンケートでは、以下のような感想が寄せられました。

当日暑い中ご協力いただいた、学内外全ての皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました！

＼オープンキャンパスの感想／

先生・学生の方にとても詳しく説明していただきました。大きな設備が多く、施設が充実していると思いました。

学生さん達の対応が凄くていいで分かりやすかったです。

学生の方がみな感じのいい方で、楽しんで研究に取り組んでいて好印象でした。

自由に参加できるものが多くて、興味ある分野を見ることができて良かったです。学食もおいしかったです。

何より楽しそうに研究していたことが印象に残りました。人それぞれ自分が好きな事を学べる良い所という好感が持てました。

学生の説明がわかりやすかったです。また研究のレベルの高さに驚きました。

在学生の話を聞く機会が多く、参考になりました。

在学生やOB/OGさんの話を聞いて、ますます入学したいという意思が持てました。

OG、OBの話で留学も面白いかなと思いました。企業研修が半年も行けるのは大きいと思いました。

長岡技術科学大学に行きたいと思いました。施設が充実していて驚きました。



編集後記

今回の企画を通じて、ふた昔前の高専生時代を懐かしく思い出すことができました。本学は(教員の出張が多い割に)他大学と比べて学生と教員の距離感が近いと感じます。また学生さん同士の距離感も良い感じです。思い返すと、私の出身高専でも似たような雰囲気がありました。学生さん達を通じて、各高専から本学へと良質な組織文化が流れ込んでいるのだとすれば、とても誇らしく嬉しいことです。一方、自戒を込めて振り返ると、高専生特有の弱点も幾つかあるかもしれません。これについても、いつか取り上げてみたい気がします。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.207 [平成30年10月号]
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会

◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

TEL. 0258-47-9209 FAX. 0258-47-9010 (大学戦略課)

E-mail : skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL : http://www.nagaokaut.ac.jp/

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。